

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立以来の「誠実・努力・奉仕」の校訓のもとに、地域に根差した教育を推進し、地域に信頼され、地域とともに成長する人格の育成をめざし、以下の点に重点をおく。

- 【全校】 1 規律ある生活態度と高い学習意欲により地域社会に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成をめざす。  
2 高い志を持ち総合知を獲得するため意欲的に学習し、自律シモラルある生活をおくりつつ誇りを持って生き抜くことができる人材の育成をめざす。  
3 心身ともに健康、明朗でたくましく、他者を理解し「知・徳・体」のバランスのとれた人材の育成をめざす。
- 【体育科】 1 将来のトップアスリートはもちろん、スポーツの特性を理解し、生涯を通して積極的に行動できる人材の育成をめざす。  
2 さまざまな体験を通して、積極的に企画・立案でき、行動力のあるリーダーの育成をめざす。  
3 スポーツを通して人間力を磨き、広い視野を持って人材育成を図ることができる指導者としての基礎的素養を身につける。

## 2 中期的目標

- 1 自信をもてる確かな学力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実
- (1) 次期学習指導要領を研究し、各教科の「つきたい力」を明確にしたうえで計画的な授業研究により授業力を向上させる
- ア 各教科において授業改善にむけて授業研究活動を行う。学校内外の先進的な実践を研究し、公開授業や研究協議により研究成果を共有し、生徒の学力向上を図る。  
※授業アンケートの「興味関心が高まった」(H27: 76.5%、H28: 80.0%) で平成 31 年度に 85%以上をめざす。
- イ 各授業で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざす活動を中心に据え、現代的な諸課題への対応力の育成を図る。  
※自己診断(教職員)の「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」(H27: 69.3%、H28: 58.3%) で平成 31 年度に 80%以上をめざす。
- ウ 習熟度別少人数展開授業(数学)の授業内容を検証し、「問題発見、解決能力」「体験から学び実践する力」の育成など他の教科でも実践を検討し指導方法の改善を図る。  
※授業アンケートの「知識技能が身についた」(H27: 76.8%、H28: 81.5) で平成 31 年度に 85%以上をめざす。
- (2) 本校生の学力の実態や大学入試改革の動向を把握し、授業を補完する補習、講習などにより生徒個々に必要な学力を向上させる
- ア 夏季集中講座、冬季集中講座を参加しやすく拡大し、自ら進んで学習する態度や学習を見直し振り返る力をつけさせるとともに進路実現に必要な学力を獲得させる。  
※実施時期、内容を検討し、平成 31 年度に各 40 名以上の参加者を目標とする。(H28 年度参加者: 夏季 27 名、冬季 18 名)
- イ 教育産業による基礎学力調査を活用し、学力の推移や得意不得意分野の分析などを踏まえて、学習計画や学習指導に活用する。  
※結果別の補習を継続し、毎学期成績下位層の人数を減少させる。
- ウ 学校生活の中での短い時間を有効活用し、学習に向かえるよう、自習スペースを整備し、朝学習、定期考査前学習会を継続させ基礎学力の習得を図る。  
※3 年間で計画的に英語検定を受験できるようサポート体制を構築する。  
※欠点保有者の数を毎年度 5 ポイント減らす。
- (3) 学年進行に応じた適時の進路指導を行い、夢を抱かせ、志を高く持たせ、生徒個々に合った進路実現を保障する。
- ア 進路指導部と校内の各組織が連携し総合的な学習の時間を活用するなど、自分の将来像を明確にイメージし生徒が自ら積極的に進路開拓できるような進路指導を展開する。  
※就職希望者は毎年内定率 100%を続ける。自己診断の進路指導の活用度平成 31 年度に 80%以上をめざす。(H27: 75.2%、H28: 77.9%)
- イ 進学希望者にはセンター試験活用入試、一般入試までの受験を勧め、講習等の支援体制を整備するとともに大学入試改革の動向を研究し情報提供する。  
※平成 31 年度までに 4 年生大学への進学希望者の 60%以上が一般入試を受験するよう指導する。(H28 センターテスト 78 名、一般入試 144 名受験)  
※平成 31 年度までに国公立と難関私大合格者 120 名以上、センター試験 100 名以上受験をめざす。(H27: 関関同立産近甲龍合格者 74 名)
- 2 計画性のある人権教育と統一感のある生徒指導
- (1) 人権尊重の精神を育み、他者を理解できるよう 3 年間で「つきたい力」を明確にした上で、人権教育を計画的に実施する。
- ア 1 年生で「同和問題」「男女平等」、2 年生で「障がい者問題」「在日外国人・国際理解教育」、3 年生で「さまざまな人権問題」を扱う。  
※自己診断: 「人権意識が高まった。」(H27 年度 80.2%、H28 年度 77.7%) で平成 31 年度 90%をめざす。
- (2) 高校生活の基本である基本的な生活習慣の確立と自主的、自律的な行動ができるための生活指導を充実させる。
- ア 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成させる。  
※自己診断: 「規律を守り、モラルを持って行動している」(H27 年度 94.3%、H28 年度: 94.5%) で平成 31 年度に 95%以上をめざす。  
※遅刻数は H26 年度が約 3500 件、毎年 15%減らし平成 31 年度には 1500 件以下をめざす。
- (3) 校内における教育相談体制を更に充実させ、生徒、保護者への周知を徹底し、生徒や保護者が困ったときに活用できる組織とする。
- ア 教職員による生徒情報の共有を促進しスクールカウンセラー等を活用したケース会議や教員研修を実施し、さまざまな事象にすばやく対応できるよう組織力を向上させる。  
※自己診断: 「学校は相談しやすい環境が整っている。」(H27 年度 54.5%、H28 年度 67.4%) で平成 31 年度に 80%以上をめざす。
- 3 夢と志を持つ生徒を支援できる学校の魅力の向上
- (1) オーストラリア St ルークス高校との連携を学校全体の取り組みとなるよう工夫し異文化理解教育を推進する。
- ア 短期留学をはじめとする相互交流の意義、目的に沿った活動により、学校全体で受け入れ、本校生徒全員の国際理解教育に資するものとする。  
※学校全体、全校生徒が交流活動を行えるよう生徒が提案する新たな交流機会を工夫する。
- (2) 生徒会活動を活性化させ学校行事や部活動の充実により達成感を持たせ、愛校心あふれる学校づくりを進める。
- ア 学年進行により行事を伝統化し、主体性と協調性をはぐくみ、生徒が主体となる学校行事の企画・運営により、自信をつけさせ、人間力を向上させる。  
※自己診断: 「学校行事に積極的に取り組んでいる。」(H27 年度 83.2%、H28 年度: 83.5%) で平成 31 年度に 90%以上をめざす。
- イ 部活動の意義、目的を共通理解し、集団活動の成果を高めながら学習にも傾注させる。  
※部活動加入生徒の欠点保有者数を前年度比較で毎年減少させる。
- (3) 生徒会の活動を学校内外に発信し、地域清掃や地域貢献活動を活発に行い地域から愛される摂津高校とする。
- ア 「あいさつ運動」「地域清掃活動」「防災活動」「ボランティア活動」などの奉仕活動により奉仕の精神を涵養する。  
※自己診断: 「地域交流、地域清掃に参加できた」(H27 年度 49.2%、H28 年度 45.8%) で平成 31 年度に 70%以上をめざす。
- (4) 広報活動を充実させ、地域からの信頼を得る。
- ア 本校生の活動を HP に掲載するとともに、ポスターなどを作成するなど、地域社会に信頼され、本校進学を志す中学生に向けての広報活動をより一層推進する。
- イ 学校内外で実施する学校説明会の見直しを図りながら、「はりたい学校」としての本校の取り組みを理解したうえで本校進学を志す中学生の増加をめざす。  
※新入生に調査し、学校説明会に参加したことがあるという割合を平成 31 年度に 70%以上をめざす。
- 4 体育科の充実に向けた一層の取り組み
- (1) 生徒が在籍する 3 年間で成果と効果を検証し、体育科設置 10 周年に向けた方針を決め、カリキュラムに反映させる。
- ア 実態調査により、「つきたい力」が備わっているかを検証し、専門科目の指導内容と照合しカリキュラムをブラッシュアップする。  
※教科において独自の授業アンケートを工夫し、自信と誇りを持つ生徒の割合を学年進行で増加させる。(3 年生「スポーツ概論」の授業肯定率 興味関心 H28 年度 94.5%)
- (2) 地域との連携により生徒の渉外力等のマネジメント力を育むとともに体育科の魅力を広報し、中学生アスリートのめざす学校となる。
- ア 「スポーツ総合演習」での取り組みを学校内外に発信し、パフォーマンス課題による課題解決力の獲得と地域への発信により達成感や自信を獲得できるようにする。  
※授業アンケート: 「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」で平成 31 年度以降も毎年 90%以上の肯定率を維持する。(3 年生「スポーツ総合演習」の授業肯定率 H28 年度 興味関心 93%、知識理解 95%)
- イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携などにより、生徒のマネジメント力と自己肯定感を高め、地域からの信頼を高めるとともに小中学生の「あこがれ」を創出する。  
※自己診断: 3 年生体育科「学校生活は充実している」で平成 31 年度以降も毎年 90%以上の肯定率を維持する。(H28 年度 91%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校に対する意識に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9割近い生徒が肯定感を持っているよりも、1割強の生徒の不満感を受け止めなければならない。今後詳しい内容精査が必要である。</li> </ul> <p>【学習指導に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する肯定感、生徒の肯定感が高いものの、保護者、教員が比較して高くない。保護者の学校への期待、教員の組織的授業力向上への期待と判断する。</li> <li>・授業力向上 PT から研究活動報告も、一般化が図られていない。今後どのように組織全体を巻き込んでいけるかが課題である。</li> <li>・学習意欲に関しても生徒に比較して、保護者、教員の肯定感が低い。低い現状に満足しがちな生徒に対して高い目標を持たせる工夫が必要である。</li> </ul> <p>【生徒指導、生徒理解に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が規律ある生活を肯定的に生活している。保護者もその成果に満足している。教員の生徒指導方針に対する意識差について議論が必要。</li> <li>・教育相談の肯定感では例年他の項目の肯定感に比較して低い。教員は三者で意識が最も低い。相談体制のあり方など議論が必要である。</li> <li>・道徳教育、人権意識に関しては教員の意識の実態に課題を感じる。「もっとできるはずである」という意見を具体的に反映させなければならない。</li> </ul> <p>【進路指導に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の25%が肯定できないのは、他の学年に比較して現実的な選択を迫られる中、十分満足な指導が受けられなかった可能性がある。面談等を通してよりオーダーメイドの進路指導となるよう体制をとりたい。</li> </ul> <p>【学校行事に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の約20%が肯定的に評価できていない。行事運営に主体的に参加できない生徒も多数存在している。行事への参加だけでなく、その他の教育活動にも参加できていない可能性があり丁寧な観察が必要。</li> </ul> <p>【情報提供に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の肯定率が他に比較的低いのは、日常の業務においても教員間での情報共有がうまくなされていないことの見解表明ではないか。</li> </ul> <p>【学校運営に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職の業務執行への姿勢が批判されている。目標が形骸化しているのか、日々の教育活動なかで、目標達成への意欲を感じることができなくなっている。</li> </ul>	<p>【第1回協議会：平成29年5月30日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導に限らず、教育活動全体において生徒の意識と教員の意識に乖離が見られる。どのように生徒のニーズを汲み取っていくのかははっきりと方針を出されたい。</li> <li>・教員にも管理職の方針、意向が伝わっていない。ガバナンスを強化されたい。</li> <li>・定員割れになった経緯等学校としての分析とその対応についてあきらかにされたい。</li> <li>・進学希望者はもっと自分の可能性に自信を持って高い目標を設定してほしい。</li> <li>・個人情報の管理において遺漏のないよう万全の管理体制をお願いしたい。</li> <li>・摂津高校のよいところはたくさんある。もっと発信してほしい。</li> </ul> <p>【第2回協議会：平成29年10月29日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況に関してもできるだけ数値化、可視化して報告願いたい。</li> <li>・学校の危機管理体制について万全を期していただきたい。</li> <li>・進路情報を丁寧にお知らせいただいているが、生徒のやる気を促す工夫をしていただきたい。</li> <li>・保護者には1回の進路講演会だけではなく伝わりが悪い。工夫してほしい。</li> <li>・クラブ指導も大切だが、長時間労働を避けていただきたい。</li> <li>・国際交流活動等のよい取り組みはもっとHP等により発信してほしい。</li> </ul> <p>【第3回協議会：平成30年1月31日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めざす学校像、めざす生徒像に照らして現状がどうであるかという認識が大切ではないか。</li> <li>・教員と生徒の間、管理職と教員のコミュニケーションをしっかりとっていただきたい。</li> <li>・自主自立ということは社会人になっても大切なこと、高校生段階で身につけていただきたい。</li> <li>・アンケートには厳しい回答もあるが期待の裏返しと理解していただきたい。</li> <li>・課題認識があっても、解決を先延ばしにするのが今時の高校生かもしれない。</li> <li>・体育科と普通科という目的の異なる学科が併置されているため、方向性を示すことが難しいとは思いますがしっかりと方針を打ち出していただきたい。</li> <li>・自ら考えて動く力は日々のマネジメントの訓練から生まれる。</li> <li>・避難訓練のあった日に家庭で話ができるような話題を学校から提供してはどうか。</li> <li>・PTA活動でも保護者が学校で活動できるような仕掛けが必要ではないか。</li> <li>・部活動と学習の両立の問題は早急にかつ抜本的に考えていただきたい。</li> <li>・教員の生徒の学習に関する意欲の評価が低いのはどのようなりゆうからか。</li> <li>・部活動の休みを与えることでマネジメント力を育成できるのではないか。</li> <li>・学校が考えていることをどんどん情報発信してほしい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自信をもてる確かな学力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実	<p>(1)各教科の計画的な授業研究に授業力の向上</p> <p>ア 学力向上につながる授業研究活動</p> <p>イ 生徒の現代的課題解決型学力の育成</p> <p>ウ 習熟度別少人数展開授業の研究</p> <p>(2)生徒個々に必要な学力を向上させる補習、講習</p> <p>ア 集中講座による希望進路への学力獲得</p> <p>イ 学力、学習状況の把握と向上策の検討</p> <p>ウ 自主学習のための環境整備</p> <p>(3)学年進行に応じた進路指導により生徒の進路実現を保障する</p> <p>ア 学年と進路部の連携による進路指導</p> <p>イ 大学進学希望者への支援体制の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各教科において授業改善にむけて授業研究活動を行う。学校内外のICTの活用事例など先進的な実践を研究し、先行事例を導入した公開授業や研究協議により成果を共有し、生徒の学力向上を図る。</p> <p>イ 各授業の授業研究活動に「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」の視点を意識する。</p> <p>ウ 習熟度別少人数展開授業（数学）の授業内容を検証し、「問題発見・解決能力」「体験から学ぶ実践力」の育成など他の教科でも実践の可能性を検討する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 夏季集中講座、冬季集中講座を工夫改善し、自ら進んで学習する力や学習を見直し振り返る力を身につけさせ、進路実現に必要な学力を獲得させる。</p> <p>イ 教育産業による基礎学力調査を活用し、学力の推移や得意・不得意分野の分析などを踏まえて、学習計画や学習指導に活用する。</p> <p>ウ 自習スペースを整備し、隙間時間の活用、朝学習、定期考査前学習を継続させ基礎学力の習得を図る。1年生からの3年間の英語検定受験の計画を立てる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 進路指導部と校内各組織が連携し、総合的な学習の時間を活用するなど自分の将来像を明確にイメージし生徒が自ら積極的に進路開拓できるような進路指導を展開する。</p> <p>イ 進学希望者にはセンター入試、一般入試までの受験を勧め、受験のための講習等の支援体制を整備し、入試改革の動向を研究により成果を情報提供する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業アンケート「興味関心が高まった」85% (H28:80.0%)</p> <p>イ 自己診断「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」80% (H28:58.3%)</p> <p>ウ 授業アンケート「知識技能が身についた」85% (H28:81.5%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 各講座ともに40名以上の参加者を目標とする (H28 夏27、冬18)</p> <p>イ 下位層の人数を毎学期ごとに減少させる</p> <p>ウ 年度末での欠点保有者を毎年度5ポイント減らす (H28:66名)</p> <p>(3)</p> <p>ア 就職希望者は毎年定率100%を続け自己診断の進路指導の活用度80%をめざす。(H28:77.9%)</p> <p>イ 4年生大学への希望者の60%以上一般入試受験 (H28:一般入試144名/274名)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業力向上PTにより他校の先進事例の伝達研修を校内の実践に活用できた。授業アンケート「興味関心」80.7% (○)</p> <p>イ 授業力向上PTでの議論を踏まえ研究授業を企画、情報発信したが、組織全体での共有には課題を残した。自己診断「主体的、協働的学習」48% (△)</p> <p>ウ 少人数展開授業の実践からのフィードバックは予定通りの成果があがらなかったが、動画コンテンツを充実して自主学習の試験的な取り組みができた。授業アンケート「知識技能」82.0% (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 各クラスでの広報が効果的であった。夏期学習会21名参加、冬季集中講座62名参加 (○)</p> <p>イ Dランク補習の実施は予定通り実施できたが、普段の学習活動に反映されなかった。(1学期末合計70名→学年末合計68名) (△)</p> <p>ウ 朝学習や隙間時間の活用が組織的に展開できなかった。早朝や考査前の希望者への学習支援は教科担当者が実施。(68名) (△)</p> <p>(3)</p> <p>ア 学年と進路指導部の連携により3年間のロードマップに基づき、実態調査、各種セミナー等のイベント、学習支援策という流れができてきた。自己診断「進路指導の活用度」79.7% (○)</p> <p>イ 入学時から一般入試まで粘って受験することを学年団、教科担当者から指導を続けた。大学進学希望者292名、一般入試受験予定者約160名:54.8% (○)</p>

府立摂津高等学校

<p>2 計画性ある人権教育と統一感ある生徒指導</p>	<p>(1) 人権尊重と他者理解のための人権教育 ア 人権課題の整理し3年間の計画的な指導とする (2) 基本的生活習慣の確立と自主自立の精神の涵養 (3) 相談体制の充実 ア 生徒情報の共有促進とケース会議による組織力の向上</p>	<p>(1) ア 1年生で「同和問題」「男女平等」、2年生で「障がい者問題」「在日外国人・国際理解教育」、3年生で「さまざまな人権問題」を扱うことにより計画的に人権課題に主体的に取り組ませる。 (2) ア 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成させ、落ち着いた学校生活を過ごし、一人ひとりが安心、安全な学校の構成員であることを自覚させる。 (3) ア 生徒情報連絡会を毎週開催し、教職員による生徒情報の共有を促進しS C等を活用したケース会議や研修会を行うなど、さまざまな事象にすばやく対応できる組織力を向上させる。</p>	<p>(1) ア 自己診断：「人権意識が高まった。」90% (H28年度 77.7%) (2) ア・自己診断：「規律を守り、モラルを持って行動している」95% (H28年度 94.5%) ・遅刻数 2500 以下 (H28年度 2020 件) (3) ア 自己診断：「学校は相談しやすい環境が整っている。」80% (H28年度 67.4%)</p>	<p>(1) ア ここに記した配列ではないが、3年間の見通しを1年生時に全体計画として校内で共有して進めることができた。自己診断「人権教育の肯定感」80.9% (○) (2) ア 問題行動が多発しているわけではないが、生活指導を一般化できない生徒がいる。自己診断「生徒指導の肯定感」95.0%、年間遅刻数 1643 件 (○) (3) ア 「気になる生徒」のマーキングを教員の感覚が鋭敏になったことで情報共有される生徒数が増えた。チーム対応した生徒数も増加した。自己診断「教育相談の肯定感」65.6% (△)</p>
----------------------------------	---	---	--	--

<p>3 夢と志を持つ生徒を支援できる学校の魅力の向上</p>	<p>(1) 学校間連携による異文化理解教育の推進 ア 新たな交流機会の創出 (2) 学校行事と部活動の機能の向上 ア 達成感を味わい、自信をつけさせる学校行事の伝統化 イ 部活動の成果の向上と学習への傾注 (3) 生徒会活動による地域貢献と情報発信 ア 奉仕の精神を涵養する生徒会活動 (4) 広報活動の充実と地域からの信頼獲得 ア 生徒の活躍の広報と地域への情報発信 イ 学校説明会の充実と入学(受験)希望者への情報提供 (5) 防災教育の充実</p>	<p>(1) ア オーストラリア St ルークス高校との連携を学校全体の取り組みとなるよう新たな交流の機会を工夫し国際理解教育を推進する。 (2) ア 学年進行により行事を伝統化し、主体性と協調性をはぐくみ、生徒が主体となる学校行事の企画・運営により、自信をつけさせ、人間力を向上させる。 イ 部活動の意義、目的を共通理解し、集団活動の成果を高めながら学習にも傾注させる。 (3) ア 「あいさつ運動」「地域清掃活動」「防災活動」「ボランティア活動」などの奉仕活動により奉仕の精神を涵養するとともに地域に信頼される摂津高生をめざす。 (4) 広報活動を充実させ、地域からの信頼を得る。 ア 本校生の活動をHPに掲載するとともに、広報用ポスターなどを作成するなど、本校進学を志す中学生に向けての広報活動をより一層推進する。 イ 学校内外で実施している学校説明会の見直しを図り、「入りたい学校」としての本校の取り組みを理解したうえで入学者選抜に挑む中学生の増加をめざす (5) ア避難訓練を工夫し生徒の防災意識を向上させる。</p>	<p>(1) ア 交流した生徒の事後アンケートを実施し、肯定率を70%以上 (2) ア 自己診断：「学校行事に積極的に取り組んでいる。」90% (H28年度 83.5%) イ 部活動毎に意義や目的をHPで公開して共有する (3) ア 自己診断：「地域交流、地域清掃に参加できた」70% (H28年度 45.8%) (4) ア メールマガジンの登録者 80% (H28：71.6%) イ 新入生に調査 ・説明会の肯定率70%以上 (5) ア 自己診断：「防災意識が高まった」70%以上(H28:65%)</p>	<p>(3) ア St ルークス高生の受け入れでは校内組織をあげてホームステイ先を確保できた。派遣の事前指導でも十分な指導体制で準備できた。肯定率 85.0% (○) (2) ア 生徒会執行部の広報や「盛り上げイベント」などの工夫により全体化が進んだ。自己診断「学校行事の肯定感」72.0% (○) イ 18の部活動で情報公開しているが、更新頻度は部活動ごとに差がある。(△) (3) ア地域清掃や福祉施設でのボランティア活動を生徒会主導により部活動生徒等に呼びかけ実施できた。自己診断「地域交流、地域清掃の取組み」58.6% (○) (4) ア HPの運用は組織ごとに差がある。広報活動は予定とおり実施できた。メールマガジンの登録者 66% (△) イ 1年生へのアンケートにより中3時に参加した説明会参加者数を基に重点化を図った。1月発表の希望調査の競争率は昨年を上回った。1年生へのアンケートによる「説明会の肯定感」73.8% (○) (5) ア 「大阪 880 万人訓練」に参加するなど社会の動きと関連付けるなど工夫して実施した。自己診断：「防災意識が高まった」66.1% (○)</p>
-------------------------------------	--	--	--	--

<p>4 体育科の充実に向けた一層の取組</p>	<p>(1) 成果、効果の検証とカリキュラム反映 ア 実態調査とカリキュラムの改善 (2) 地域連携と体育科の魅力の広報 ア 地域と連携したパフォーマンス課題への取り組みの発信 イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携強化と生徒のマネジメント力の向上</p>	<p>(1) ア 実態調査により、「つきたい力」が備わっているかを検証し、専門科目の指導内容と照合しカリキュラムをブラッシュアップする。 (2) ア 「スポーツ総合演習」での取り組みを地域に向けて発信し、パフォーマンス課題による課題解決力の獲得と地域への発信により達成感や自信を獲得できるようにする。 イ 地域の総合型スポーツクラブや障がい者スポーツの団体との連携などにより、生徒のマネジメント力と自己肯定感を高め、地域からの信頼を高める活動とするとともに小中学生の「あこがれ」を創出する。</p>	<p>(1) ア 3年生専門科目での授業アンケート「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」とともに90%(H28:95%、95%) (2) ア 授業アンケート：「スポーツ総合演習3」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」80%以上 (H28:93%、95%) イ 体育科3年生の自己診断：「学校生活の充実」90%以上 (H28:91%)</p>	<p>(1) ア 「つきたい力」からのカリキュラムのブラッシュアップは概ねできた。授業アンケート「興味関心が高まった」92.5%「知識技能が身についた」92.5% (○) (2) ア 外部有識者の指導助言の下、4月から共通のテーマに取り組み「スポーツイベント」企画、プレゼン、営業のプロセスの中でクライアントを地元中学校に引き受けていただき中学生を招いてのスポーツ大会を実施。授業アンケート興味関心 92.5%、知識理解 95% (◎) イ 大阪府障がい者スポーツ協会に来校いただき、障がい者スポーツ体験会を実施できた。総合型クラブはテニス、サッカー、陸上等で地域のクラブと連携活きた。自己診断：「学校生活の充実」集計中 92% (○)</p>
------------------------------	--	---	--	--